





# 給排気筒標準設置取り付け型紙

710

## 給排気筒の取り付け(つづき)

### 標準給排気方式の工事方法(つづき)

#### 5. 室内側給排気筒を壁穴に差し込んでください。

- 室内側パッキンを通し、壁穴に差し込んでください。

#### 6. 給排気筒トップを取り付けてください。

- 給排気筒トップに室外フランジ、室外側パッキンを通し、室外側より壁穴に差し込み、室内側給排気筒に半分ほどねじ込んでください。



- 雨水が激しくかかるところや濃霧が発生する地域では、雨水の壁内浸入を防ぐため、ねじ込み部にコーキング剤などを塗布してください。

#### 7. 室内側給排気筒の室内フランジを固定してください。

- 室内フランジを「上」の文字が上になるように、付属のねじ(4×25、3本)で壁に固定してください。

#### 8. 給排気筒トップを固定してください。

- 室外フランジのつまみが上になるように、つまみを持って壁面に押え付けながら、給排気筒トップをさらにねじ込んでしっかりと固定してください。



- 給排気筒の取り付け完了時に給排気筒が3°下向きになるように、室内・室外フランジの取り付け向きには十分注意してください。雨水がストーブ内に入り異常燃焼したり、室内や壁内に浸入することがあります。

壁厚が11～13.5cmの場合は付属のスペーサを使用してください。

- スペーサ・スペーサパッキンを室外側給排気筒に通してください。

#### ■給排気筒内の結露水で壁が汚れるおそれがある場合

- スペーサ・スペーサパッキンを使用し、給排気筒トップを壁から離してください。(壁の厚さは11～21.5cmまで)

#### 9. 室外フランジ部にコーキング剤を塗ってください。



- 完全にコーキングしないと、雨水が室内や壁内に浸入することがあります。

#### 10. ストーブより排気管エルボを外してください。

- ストッパーを固定しているねじ2本をゆるめ、ストッパーをずらして排気管エルボを外してください。

#### 11. 排気管エルボに付属の排気管断熱カバーをかぶせてください。

#### 12. 排気管エルボを給排気筒に取り付けてください。

- ①室内側給排気筒の排気口に排気管エルボを差し込んでください。
- ②差し込み部のリップをはさんで付属のストッパーリングをかけてください。

#### ■水平方向の排気口に接続する場合

- 排気口は水平・垂直方向にあります。設置条件に合わせて接続する方向を決めてください。
- 水平方向の排気口に接続する場合は、水平方向のねじ、排気口キャップを外し、垂直方向に取り付けなおしてください。

#### 13. ストーブと排気管エルボを接続してください。

- ①ストーブを動かし、ストーブの排気口に排気管エルボを2段目のリップが完全にストーブ内に入るまで差し込んで、接続してください。
- ②ストッパーを排気管エルボに押し当て、ねじ2本を締め付けてください。

#### 14. 給気ホースを給排気筒に固定してください。

- 給気ホースに付属のワイヤーバンド(大)を通してから、給気ホースを給排気筒の給気口のリップまで差し込み、ワイヤーバンド(大)で締めて固定してください。
- 給気口は2箇所ありますので、使用しない給気口には給気口キャップを取り付け、ピンバンドで固定しておいてください。

#### 15. 排気管抜け検知リード線を接続してください。

- ①ストーブ背面に固定してある排気管抜け検知リード線をストーブより外し、のばしてください。
- ②排気管抜け検知リード線の先端の端子を、給排気筒の排気口キャップを固定しているねじで固定してください。
- ③リード線を給気ホースにビニテープで固定してください。(ビニテープはあらかじめリード線を固定していたものを使用してください。)
- ④余分なリード線をビニテープでたばねてください。



- 排気管接続部へのストッパーリングの取り付けや排気管抜け検知リード線の先端の端子固定を確実に行って、接触不良を起こさないようにしてください。排気管の接続部が外れていたり、排気管抜け検知リード線が正しく接続されていないと、「E-19」を表示し点火できません。
- リード線は給排気筒の高温部に触れないようにしてください。

### 壁固定金具による本体の固定

#### 給排気筒の取り付けが完了したら、ストーブと壁とを付属の壁固定金具で固定してください。

- 壁の材質により壁固定金具の固定する方法が異なりますので、「**ストーブの固定**」を参照して適切な方法で固定してください。

### 延長給排気方式・高地使用時の工事方法

- 標準給排気以外にも排気管や給気管を延長して取り付けることができます。給排気筒の呼び径D40タイプの別売延長セットを使用して延長工事を行ってください。

- ストーブについている排気管抜け検知リード線は約2mまで延長できます。それ以上の場合は別売延長コード線(FR-1)で延長してください。
- 延長配管部材を使用する場合や標高500m以上の高地で使用する場合は、燃焼用送風機の回転数を補正する必要があります。以下の手順と表を参考に設定してください。(設定は操作部で行います。)

#### ●設定方法

- ①電源プラグをコンセントに差し込んでください。(運転中は設定できません。)
- ②火力/室温調節ボタンの「高/強」とセーブボタンを10秒以上同時に押してください。
- ③液晶表示部の表示が「H0E0」へ切り替わります。「H」は標高、「E」は延長を示します。
- ④設定したい内容を表示させてセーブボタンを押し、通常の表示に戻せば設定完了です。
- ⑤燃焼確認を行ってください。点火、最小燃焼、最大燃焼、消火、再点火を行い、異常がないことを確認してください。炎がリフトする場合は、高地または延長設定のいずれかを「1」下げます。(例:「H1」→「H0」) 最大燃焼時に赤火になる場合は、高地または延長設定のいずれかを「1」上げます。(例:「H1」→「H2」) ※設定を調整する際に給気リングの取扱いが生じる場合がありますので、「**高地設定**」の表を参照して行ってください。

#### 高地設定

「低/弱」を押すと「H0」→「H1」→「H2」→「H3」→「H0」と切り替わります。また、標高により給気リングを外してください。

標高	高地設定	給気リング
0～500m未満	H0	○
～1000m未満	H1	○
～1500m未満	H2	×
1500m	H3	×

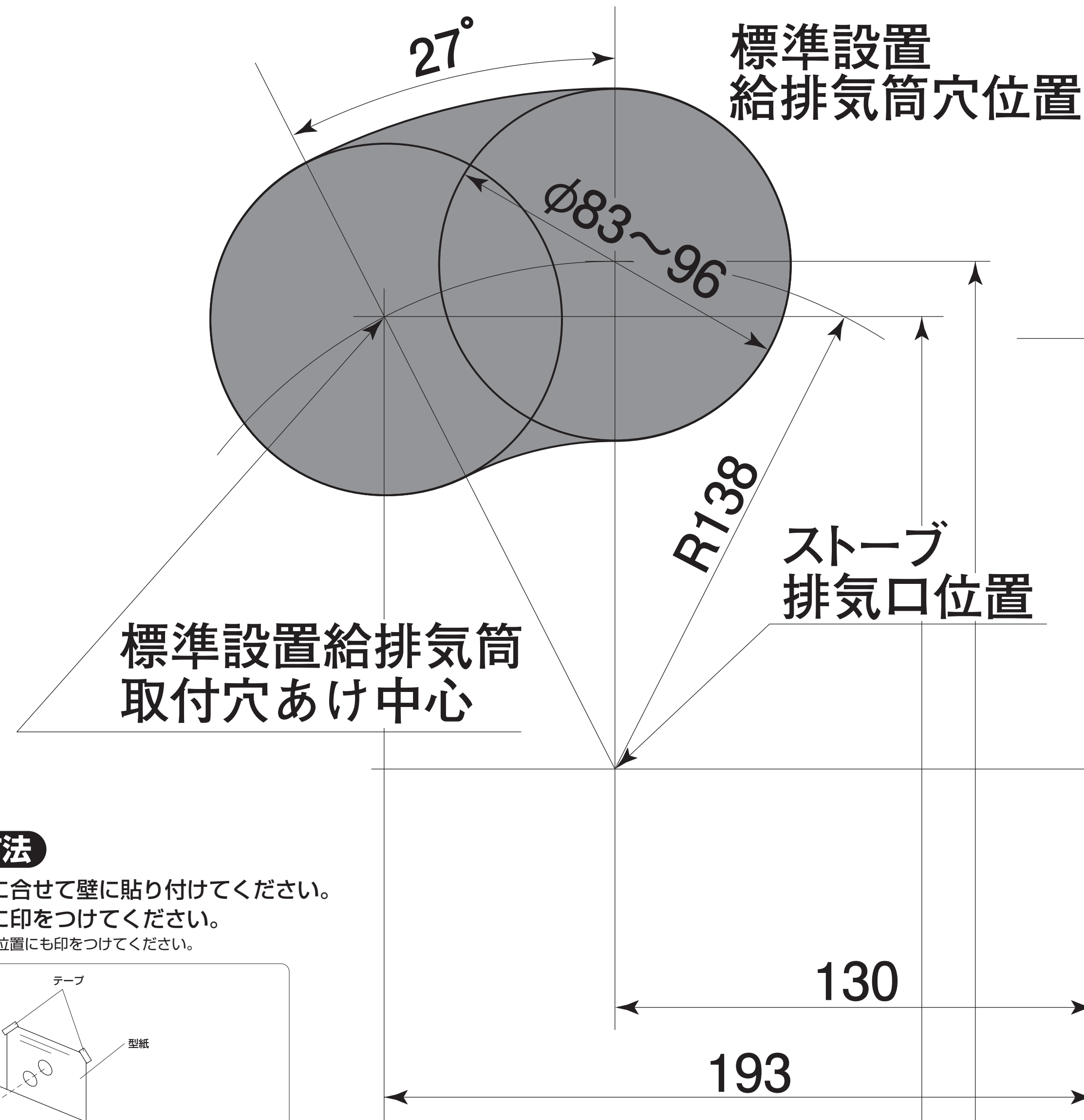
※「○」: 給気リング取り  
※「×」: 給気リングを外す

#### 延長設定

「高/強」を押すと「E0」→「E1」→「E0」と切り替わります。

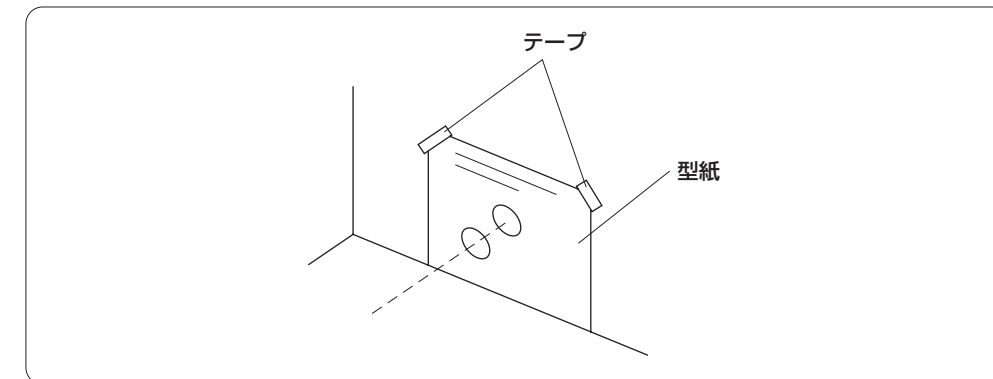
延長	1曲	2曲	3曲
1m	E0	E0	E1
2m	E0	E1	E1
3m	E1	E1	E1

※排気管エルボ1個追加の場合:「E0」  
※排気管エルボ2個追加の場合:「E1」



### 型紙の使用法

1. 型紙の床面を床に合せて壁に貼り付けてください。
  2. 給排気筒穴位置に印をつけてください。
- 同時に壁固定金具用穴位置にも印をつけてください。



- ※ ●工場出荷時の設定は「H0E0」です。
- 給気リングの有無により高地・延長設定の数字が大きいくほど、燃焼用空気の量が多くなります。

調節例: 標高1200mで2m2曲がりの場合、高地・延長設定は「H2E1」に設定し、給気リングを外してください。



- 延長配管の長さは3m以下、曲がりは3箇所以下になるように配管してください。それ以上延長しますと異常燃焼することがあります。
- 延長配管の排気・給気のそれぞれの長さや曲がり数は同じにしてください。
- 排気管の取り付けはストーブ本体出口を最も低い位置とし、上り勾配で取り付けてください。下り勾配や凹部になっていますと排気管にドレンがたまり、異常燃焼の原因になります。
- 排気管接続部の全てにストッパーリングの取り付けを確実に行ってください。「E-19」を表示し点火できないことがあります。
- 最大使用標高は1500mです。それ以上標高が高いと異常燃焼の原因になります。
- 設定方法がわからなくなった場合は、「低/弱」「高/強」を同時に押しリセットし、④からやり直してください。

## 据付け(つづき)

### 結露水受皿への給水

ソフトパネル4.5畳以上で使用する場合は、必ずドレンホースの栓を抜いて、結露水受皿に底から2～3cm以上給水してください。

- ドレンホース先端の栓を外し、ドレンホースを結露水受皿に入れてください。
- 結露水受皿に底から2～3cm以上給水してください。



- ドレンホースの先端が水の中に入っていることを確認してください。
- ソフトパネル4.5畳未満の場合には、ドレンホースの栓を外す必要はありません。又、結露水受皿に給水する必要もありません。

## 試運転

- 試運転は使用者と一緒に行ってください。詳しくは取扱説明書の48ページを参照してください。

## 廃棄するときの注意

- ストーブを廃棄するときは、必ず灯油を抜いてください。リサイクルの支障となります。

この線を床に合せてください。